野間仁根

2019年
10月12日(土)～
12月28日(土)

日本画展

◆月夜と眼鏡

小川未明童話集『大きな蟹』挿絵

◆海からきた使い

◆ものぐさ爺の来世

野間仁根 バラのミュージアム

〒794-2103
愛媛県今治市吉海町福田1290番地
TEL/FAX（0897）84-2566

休館日　◆月曜日（祝日の場合は原則翌日）
開館時間　◆9：00～17：00（入場は16：30まで）
入館料　◆一般：310円・学生：160円
◆高校生以下または18歳未満無料
◆団体（20名以上）・65歳以上の方は2割引
◆障害者手帳をお持ちの方、その介護者1名は無料

野間仁根バラのミュージアムは、今治市吉海町出身の洋画家、野間仁根の作品を多数所蔵する施設です。その題材は草花・昆虫・風景など身近に存在する自然のものから人・動物・星座などを幻想的に描く広大なものにまで至り、また画材は、油彩に限らず水彩・クレパス・水墨などを使用した多種多様の作品を多く残しています。「あるがままに自由に」をモットーにした仁根の作品を当館では多数鑑賞することができます。

1938年、熊谷守一と「作品発表二人展」開催の翌月には二人展に藤田嗣治が加わり、日動画廊にて「日本画三人展」も開催しています。仁根は1944年～1952年頃、吉海町（旧津倉村）に疎開しており、その時期、油彩制作に関しては目立った大作は少なく、故郷の写生に基づく素描や水墨画（主に俳画）を多く手がけています。水墨画は同じく吉海町のある大島出身の俳人村上壷天子（1878～1984）の影響のもと俳句・俳画を嗜むようになり、終戦後も壷天子と共に島に留まり、島内の有志を募り「泊句会」（泊とは郷里の地名）を結成するほどでした。句会では俳句活動だけでなく、仁根を中心に写生会もしばしば行っていたそうです。今回の企画展ではその俳画を中心とした展示をいたします。仁根といえば躍動感あふれ力強く色鮮やかに描かれた油彩画が特徴ですが、俳画にもユーモアあふれる何事にも精通した仁根の人文性が垣間見れます。心温まる仁根の世界をこの機会にどうぞご覧下さい。

《長井健「野間仁根の人文性について」引用》

◆早春之図

◆河童之図

◆石榴之図

◆牛耕之図

野間 仁根 《日本画展》

NOMA HITONE

【略歴】

1901年 2月5日津倉村（現吉海町）に生まれる。
1919年 伯父を頼り、母と上京。
1920年 川端画学校に学び、4月東京美術学校（現東京芸術大学）に入学。
1924年 第11回二科展で「ランプのある静物」が初入選。
1925年 東京美術学校卒業。
1928年 第15回二科展で「夜の床」が樗牛賞受賞。
1929年 第16回二科展で「ぜ・ふるむうん」が二科賞受賞。
1931年 佐藤春夫作「むさしの少女」に挿絵を描く。
1932年 津倉村に於いて志那と結婚。
1933年 二科会会員に推挙される。
1938年 熊谷守一と作品発表2人展を開催。
1944年 郷里（津倉村）に疎開。二科会解散。
1955年 二科会脱会。
同年、鈴木信太郎らと一陽会を結成。
その後、個展や小規模なグループ展を開催。
1979年 12月30日。78歳で逝去。
現在も吉海町・福蔵寺に眠る。

展示室２

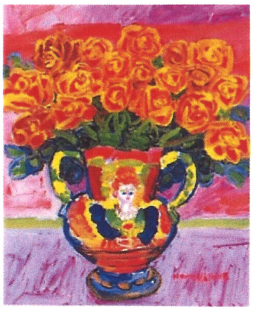
展示室3

館内インフォメーション

■展示室１ ⇒ 貸館対応室
習い事教室、趣味の展示会などにお使い下さい。
■展示室２ ⇒ ふるさとの暮らし
古民具、漁具、農具などを展示。
■展示室３ ⇒ 郷土のあゆみ
大島に現存する神社でいちばん古いとされる田中神社ゆかりの品、その他の展示。

〒794-2103　愛媛県今治市吉海町福田1290番地　TEL/FAX0897-84-2566
野間仁根 バラのミュージアム（今治市吉海郷土文化センター）

■広島県尾道市側から
[自動車]◆ 尾道IC/福山西IC松永・尾道バイパスを経由してしまなみ海道：大島北ICから約10分
[バス] ◆ 広島バスセンターまたは福山駅前からしまなみライナーにて大島BS下車・乗換
島内路線バスにて「幸」さいわい下車・徒歩10分
■愛媛県今治市側から
[自動車]◆ しまなみ海道：大島南ICから約10分
[バス] ◆ 今治駅から特急（または急行）バスにて「吉海支所」下車
徒歩15分



◆薔薇